

楽観的かもしれませんが…

会員 古屋 丈順



■ 弁護士登録から半年経過して

私は、司法試験の合格者が年間500人くらいだったころに弁護士になろうと思い、合格者が年間1500人の時代に司法試験に合格し、昨年10月から弁護士をしています。

■ 楽しい毎日

私の所属している事務所は、特定の法分野に特化した事務所ではなく、いわゆる一般民事全般を扱う事務所です。私は、司法試験の受験をしていたころから、弁護士として紛争の法的解決をしたいと考えていました。ですから、今の事務所で、多様な依頼者の様々な相談に対し、法的にどのように解決すべきかアドバイスし、あるいは依頼者の代理人として活動するのは、とても楽しいことです。ただ、この楽しさは、私がイソ弁で、弁護士歴50年超のボスの庇護の下にある、ということによるところが大きいような気がします。

ボスといえば、ボスはとてもお元気です。私も、ボスと同じ年になっても、あのように元気に仕事をしたいと思います。ボスは、見た目も若いのですが、日々の行動も若々しいのです。ある日、顧客、ボス、私の3人で紛争現場を見に行ったときには、その後昼食を食べようということになり、顧客（この方もすでに古希を迎えられたはず）とボスがステーキを食べるとおっしゃるので、ノロウイルスに襲われていた私も、もちろんステーキを食べることになり…肉も好きですが、あの日はさすがに…。

■ 緊張する毎日

もちろん、仕事をしているときは、まだ慣れな

いこともあり、緊張の連続です。

ある日、顧問先から、取引先が倒産し、自社に対する債権の譲渡通知が複数届いているので、二重払いの危険を回避するため弁済供託をしてほしい旨の依頼を受けたときは、web上での検索の結果、最初に届いた譲渡通知が2通同時到達していた事実を知り、パソコンの前で呆然となりました。結局、供託原因を発見し、法務局とのやり取りを経て、無事供託することができたのですが、事務局から供託手続が完了したという連絡を聞き、ほっとしたことを覚えています。

またある日は、相手方が欠席する可能性が相当程度ある事件で、種々の理由で、書面上ある事実を主張しないことにしたのですが、その事実を主張しないと「主張自体失当」と判断される可能性があるのではないかという不安？に駆られ、どきどきしながら裁判所に行ったこともありました。結局相手方が出頭したので、さりげなくその事実を口頭で主張し、不安は杞憂に終わったのですが。

■ 今後のことを考えてみる

今後、司法試験の合格者は年間3000人になるようで、弁護士人口が爆発的に増えることは間違いないさそうです。私も、弁護士として仕事を続けるため、先人のしなかった分野の仕事をする等、いろいろなことを試みる必要がありそうです。ただ、まずは、日々の仕事を通じて自分の能力を高め、周囲の人々に迷惑をかけないようにしたいと考えています。そうしていれば、そのうち何とかなるのではないかと…。極めて楽観的かもしれませんが。